

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

26



品開発にも拍車をかけています。

ドイツ最大の環境NPOのNABU(ドイツ自然保護連盟)は43万人の会員組織で自然環境に取り組んでいる最も歴史のあるNPOの一つです。2回にわたって、その歴史や歩みを中心に報告いたします。

下のような考え方を述べています。一時、バイオマスエネルギーがいいからといって一つの作物を同じ地域でみんなが作り始めましたが、生物多様性の見地から生態系のことを考えるとこれはよくありません。また、風力発電も渡り鳥の来る地域は避けるべきですし、住民を巻き込むということにおいて、環境NPOは経済界と住民との懸け橋的な役割を担っています。常に100%正しい決断というのはな

会員40万人のNPO④

原子力発電は「通過点」

ドイツにおいても原子力発電に関しては賛否の議論が絶えません。ドイツにおける原子力に対する国民の一般的な考え方は、新しいエネルギーが中心になるまでの通過点としてとらえており、一時的なエネルギーと考えているそうです。その根拠として、ウランも石油と同じで長く続くことがないことが分かってきていること、すべてウランで世界の電力をまかなうと、計算によればチェルノブイリ原発の事故と同規模の事故が毎年起こることが数字に表れるくらい安全性に対する大きな

に立ち上げたのが始まりです。

ドイツ・ヘッセン州代表のエプラー氏は、「生物多様性会議(COP10)」が名古屋で開催されたことに触れ、以

いので、比較することにより、よりよい結論に導くことが大切ですと。

さて、ドイツの環境政策については、公共施設はもちろんのこと、個人の家について

不安があることです。さらに、原子力発電そのものだけではなく、核廃棄物の最終処理の問題も残っていますし、原子力発電はCO₂をまったく出さないと報道されていますが、この情報は正しくないと疑問を投げかけています。

環境NPOの主張は、ウランの精製過程においてのCO₂の排出量がまったくカウントされていないので、この時のCO₂の排出量はかなりの量になると声を大にして主張しており、このことも国民の意識に大きく影響しているようです。いずれにしても、ドイツでは新しい原子力発電所の建設ができないことから、通過点的なエネルギーといえます。



ドイツの環境NPOの施設で、代表者から説明を聞く筆者(右)

も新築のみならず改築においても太陽光パネルの設置など、環境への何らかの配慮を法的に義務づけています。また、企業に対しても環境に関しての補助金制度の説明も含めて、どのような投資効果があるか等の情報提供を行うことにより、企業の新しい製

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

|| 毎月第2、第4、第5水曜日掲載 ||